

巡礼者イニゴ

聖イグナチオ・デ・ロヨラの劇的な生涯の劇

塩谷惠策 SJ

31

第九幕 第2場

1523年はじめ

バルセローナの港

| | | |
|-------|-----|-----------|
| 登場人物： | 巡礼者 | イニゴ・デ・ロヨラ |
| | 水夫 | 2人 |
| | 船長 | ロドリゲス |

【語り】エルサレム巡礼の旅に出たイニゴは、教皇の祝福を得るために、先ずローマに向かいます。バルセローナから海路イタリアに渡ることにしたイニゴは、無料で乗せてくれる船を探しながらバルセローナの港を歩きます。初めの2日間は断られ続けましたが、イニゴはくじけず、探し続けます。

【黒い使いの合唱】イニゴよイニゴ 恥知らず 無賃乗船とは 虫がいい
いまどきそいつは 一寸無理 きちんと船賃用意しな

イニゴ：私は神に絶対の信頼を置いている。お金であれ、有力者の手づるであれ、食料であれ、神以外のものには一切頼りたくないのだ。思し召しならば、神は必ず、道を開いてくださるはずだ。よし、あそこの船に頼んでみよう。

《荷を積みこんでいる水夫の一人に近づく。》

水夫1：おい、重い物運んでるんだ。道をあけてくれねーか。

イニゴ：すみません。私も手伝いましょうか？

水夫2：お前みて一なヒョロヒョロに重い荷物が運べるかよ？
かえって足手まといだ。

イニゴ：若い時ずいぶん体は鍛えたもんだ。

そのくらいの荷物運べんでどうする！

水夫1：じゃー、あそこにある小さい方を船まで運んでくれ。

そう、それだ！重いぞ。

イニゴ：何のこれしき。

水夫2：おっ、よく持ち上げたなあ。じゃ、頼むぜ。

(イニゴ、船の縄梯子の下まで3往復して荷を運ぶ。)

水夫2：ありがとう。助かったぜ。お前さん、力はあるが、足を悪くしてるね？

イニゴ：2年前に怪我をしてね。

ところで、船長さんに会わせてもらえんだろうか？

水夫2：船長なら、ほら、あそこでタバコ吸ってる人だ。

ついてきな、一緒に行こう。

船長、この人が船長に用があるそうです。

荷物運びを手伝ってくれました。

イニゴ：初めまして。巡礼中のイニゴと言います。

船長：荷物運びを手伝ってくれたそうで、ありがとうございます。

巡礼中と言われたが、どちらに行かれるのですか？

イニゴ：若いときの罪滅ぼしにと、諸国を物乞いしながら行脚しているところ
です。まずローマに行って、教皇様の巡礼許可を頂きたいと思っています。

船長：それは殊勝なことですな。粗末な服を着ておられるが、由緒ある家の
方ですな？言葉づかいでわかりますよ。

イニゴ：あんまり家族のことなど知られたくないので、できるだけ貧しく暮ら
しています。そこでひとつお願いがあるのですが、イタリアまであなた
の船に只で乗せていただけないでしょうか？

船長：イタリアまで只で……？ まあ、それはいいですよ。神に仕え
てる人を乗せるんだから、船賃は要りません。ただ、一つだけ条件が
あります。道中の食料だけは自分で用意してくださいよ。乗組員の
分しか食料を積んでないのね。

イニゴ：本当はイタリアまで、飲まず食わずでいけたらいいと思っているので
すが。

船長：そんな無茶なことを！船に揺られているだけで、ずいぶん体力を消耗
するんですよ。風によっちゃあ、10日やそこらかかるんだから、そ
れは無理です。ぜひ、乾パンだけは用意してください。出港は5日後
の朝です。

イニゴ：わかりました。乗せて下さるだけで、大変ありがたいです。

それまでに何とかします。

【語り】 こう答えて船長と別れたイニゴでしたが、果たしてこれでよかったのかと、心配になるのです。

【黒い使いの合唱】 イニゴよイニゴ 不信仰者 お前の信仰はこの程度か
神にすべてをゆだねると よくもまあ 言えたものよ

イニゴ：神のみに頼ると言っ、すべての援助を断ってきたのに、今になって乾パンの準備をしなければならないのか？こんな人間的な手段に頼って、神のみ摂理に対する信頼が揺らぎはしまいか？

【白衣の天使の合唱】

ああイニゴ 未だ知らずや 自然的 手段もまた
神の道 歩むに当たり 必要な 手助けなるを

【黒い使いの合唱】 イニゴよイニゴ騙されるなよ 神にすべてを委ねるなら
食べ物なんぞの 心配は もつてのほかと わきまえよ

イニゴ：ああ、どっちの考えが正しいのだろう？

どっちも一理あるようで、自分一人では決めかねる。

よし、明日赦しの秘跡を受けるとき、聴罪司祭に相談してみよう。